

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

がん研有明病院大腸外科での研修を終えて

JCHO大阪病院外科

大澤日出樹

平成30年1月15日より2月9日まで、日本臨床外科学会の国内外科研修プログラムによりがん研有明病院の大腸外科で研修させていただきました。このような機会を与えていただきました日本臨床外科学会の跡見裕会長、国内外科研修委員会 委員長 高山忠利委員長、日本臨床外科学会大阪府支部長 弓場健義先生に深く御礼申し上げます。また、同病院での研修を快く受け入れていただいた、がん研有明病院病院長の山口俊治先生、部長の上野雅資先生をはじめとする大腸外科の先生およびレジデントの先生方にも感謝申し上げます。

本研修の話が来たのは、大学院を修了し、JCHO大阪病院で下部消化管を主な担当として、臨床に戻って1年が経とうとした時期でした。現在、大腸癌に対しては腹腔鏡手術が主流となっており、当院でも大腸癌に対しては腹腔鏡手術を中心に行っております。自分なりに上級医の手術やインターネット上で閲覧できる手術ビデオ、各学会、勉強会で発表される腹腔鏡手術の動画、近隣で開催されるセッションなどに参加して腹腔鏡手術について研究しておりましたが、だんだん大腸癌の腹腔鏡手術のトップランナーの人たちがする手術をLiveで見たいという気持ちが強くなってきておりました。このような時期に、国内外科研修プログラムが募集を受け付けているから応募しないかと、当院外科部長の畑中信良先生に提案いただき二つ返事で行くことを希望しました。

本プログラムは研修コース、施設、期間を自分で希望することができます。施設は名だたる病院ばかりであり、決めるのに悩みましたが、本邦随一の大腸癌の手術件数を誇るがん研有明病院を希望しました。日本臨床外科学会およびがん研有明病院と数度のメールのやり取りの後、研修の受け入れ可能であること、宿泊場所は自分で手配すること、研修期間は大腸外科で可能な限り手術を見学させていただき、また、術後管理や術前治療等についても勉強させていただくことなどが決定しました。また、研修の間、わからないことがあれば対応していただけるレジデントの先生を紹介してもらいました。彼とは卒年が同じであったこともあり、研修期間の間非常にお世話になりました。

がん研有明病院の大腸外科は私が研修した時期はスタッフの先生が7人、卒後8年目から13年目のレジデントの先生が11人の計18人で構成されており、一日4～6件の大腸癌の手術を行っておりました。私が研修した期間はほぼすべてが腹腔鏡下手術で行われておりました。私は4週間という比較的長期間研修させていただいたことから様々な手術を計46例の手術症例を見学させていただきました。特に直腸癌に対する腹腔鏡下手術ではTMEとはいかなるものかということ、実際に見ることができて非常に勉強になりました。また、多くの直腸癌症例で術前治療として化学放射線療法が行われており、この点も私が普段行っている直腸癌とは異なっていました。化学放射線療法後の直腸癌の手術は層がわかりにくく難渋すると聞いていたのですが、適切なカウントラクションをかけ、電気メスをあてるだけでTMEのラインを守り、神経を温存する一連の手術操作は非常にスムーズで爽快感すら感じました。助手への指示を含めた術野展開や左手と右手の協調動作、電気メスの使い方などは非常に学ぶべき点が多く、可能な限り持ち帰って実践したいと思います。また、手術時間が非常に短く、一日に多くの手術を行い、本邦随一の症例数を誇る施設ならではの手術を体感できました。さらに、TA-TMEや腹腔鏡下の側方郭清を見ることができたのも幸運でした。研修期間中、非常に濃密な時間を過ごしたと感じています。手

術は主にスタッフの先生1人とレジデントの先生2人の3人で行い、症例によってはレジデントの先生が執刀することもありました。私と同世代の外科医が執刀する手術を見ることはあまりなくこの点では非常に刺激を受けたのも本研修でなくては得られなかったと思います。

がん研有明病院の朝は早く月曜は7時半からカンサーボード、火曜、木曜は7時半から消化器外科全体のカンファレンスがあります。大腸外科のレジデントの先生方は朝と夕方に回診を行っており、カンサーボードやカンファレンスがある日は6時45分に病棟に集合して、問題症例の申し送りを行ったのち回診を行っていました。カンファレンスなどがない日でも7時半から回診を行い、8時台から入室する手術に備えておりました。消化器外科のカンファレンスでは症例提示だけでなく、施行予定の手術に関する文献や、がん研有明病院での成績などに関する質問もあり、非常に建設的な議論が行われているのが印象的でした。

レジデントの先生方は、日々の病棟管理、手術、カンファレンスの準備、臨床研究のデータ整理や論文作成など、忙しくも充実した日々を送っていましたが、このような忙しい中でも私のために歓迎会や交流会を頻回に開いてくださりとても感謝しております。また、スタッフの先生方も手術中の緊張感に飲まれて最初はなかなか質問もできなかったのですが、いざ、質問してみるとおそらく的外れなことも聞いていたかと思うのですが、皆さん丁寧に教えてくださり、気さくな人ばかりでした。この研修で、現在行われている大腸癌手術のトップレベルを体感することができたのは今後の私の臨床に大きな影響を与えたいと思います。

最後に、4週間という長期間、一人少ない状態で業務をしなければならぬにもかかわらず、快く送りだしていただいたJCHO大阪病院の山崎芳郎院長以下、外科のスタッフの先生方、レジデントの先生方におかれましては本当にありがとうございます。この場を借りて御礼申し上げます。